

【特別企画】 受験生のための筑波大学説明会（平成 28 年 8 月 7 日）

医学医療系 山内 一由

「実施プログラムと内容」

時 刻	実施内容
9:00	参加受付開始 -大学紹介ビデオ（Imagine the Future）-
10:00	学類長挨拶（二宮治彦 学類長） カリキュラムについて（森川一也 教授） 国際医療科学主専攻について（森川一也 教授） 進路・進学について（山内一由 准教授） 入学試験について（野口恵美子 教授） 質疑応答
11:30	模擬講義（正田純一 教授）
12:30	昼食・休憩 -大学紹介ビデオ、研究室紹介動画-
13:30	在学生・卒業生シンポジウム（在校生 2 名、卒業生 2 名） ・川上莉央（医療科学主専攻 4 年） ・岩田佳奈子（国際医療科学主専攻 4 年） ・山下 俊（修士課程 フロンティア医科学専攻 1 年） ・三浦悠樹（博士課程 グローバル教育院 ヒューマンバイオロジー 学位プログラム 5 年） 質疑応答
14:30	実習室・講義室見学ツアー（実習室説明） 受験・学生生活相談と懇談会
17:00	大学説明会日程終了

① 参加者受付開始

8月7日（日）、今年も猛暑の中での開催となりましたが、受験生とその父兄を合わせて400人を超える大勢の方にご参加いただきました。



（会場入口）



（シラバス・過去問題等閲覧コーナー）

② 医療科学類の概要の説明

二宮学類長より開会のご挨拶をいただいたのち、1) カリキュラムについて、2) 国際医療科学主専攻について、3) 進路・進学について、4) 入学試験について本学類教員より説明がありました。



（会場通路）

会場入り口付近には「シラバス・過去問題等閲覧コーナー」を設け、来場者が手に取って閲覧できるようにしました。



（二宮学類長 開会の挨拶）



(説明会風景)

③ 模擬講義

正田純一先生に「肝臓の病気と臨床検査」というタイトルで講義をしていただき、正田先生が担当されている病態検査学と生化学成分検査学の授業を体験していただきました。



(模擬講義)

④ お昼休み

修士課程（フロンティア医科学専攻）のオープンキャンパスで使用した研究室紹介動画を、お昼ごはんを食べながらご覧いただきました。

⑤ 在学生・卒業生シンポジウム

午後からは例年大好評の在学生と卒業生によるシンポジウムを行いました。医療科学類在学生2名、修士課程進学者1名、博士課程進学者1名、計4名のシンポジストに、ありのままの医療科学類を語っていただきました。詳細については、下記の「在学生・卒業生によるシンポジウム」をご覧ください。



⑥ 実習室・講義室ツアー

在学生シンポジウム終了後、医療科学類の実習室・講義室見学ツアーを実施しました。

20名1グループになっていただき、在学生と卒業生が実習室・講義室へご案内いたしました。実習室では、実習担当の教員より、学内実習がどのように行われているのかの説明がありました。

⑦ 受験・学生生活相談と懇談会

実習室・講義室ツアーと並行して、入学試験や学生生活に関する相談に応じました。

会場付近に設けた相談コーナーには、相談員として教員だけでなく在學生と卒業生も常駐して対応しました。



(教員による相談コーナー)

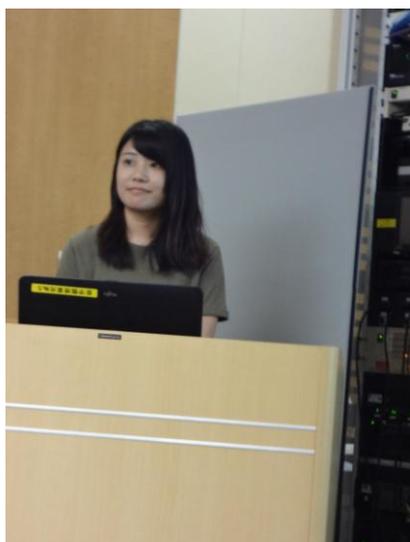


(在學生・卒業生による相談コーナー)

「在学生・卒業生によるシンポジウム」

1. 「大学生活～今までを振り返って～」

医療科学類 医療科学専攻 4年
川上莉央



(講演要旨)

私が医療科学類を志望した理由をお話しさせていただくと、中学生のころから生物に興味があり、何かしら医療関係の仕事に就きたいとおもっていました。いところが臨床検査技師として働いており、実際の現場の話聞いて興味を持ちました。私も高校生とき医療科学類のオープンキャンパスに参加し、国立大学で、研究にも力を注いでいるこの学類を志望しました。

ここで筑波大学についてお話しします。筑波大学は総合大学であり、医学のほかにも人文・社会学などいろいろな学類が存在しています。また、オリンピックなどに出場するような選手を輩出するほどスポーツが盛んな大学でもあります。また筑波大学は全国から学生が集まるため、一年目は宿舎に入居する人が多いです。二年目以降は、大学周

辺にアパートを借りる人もいます。大学周辺に住む人が多く、テスト期間には集まって勉強したり、週末に遊びに出かけたりと、充実した学生生活を送っています。

医療科について、ここで少し説明したいと思います。医療科学類とは臨床検査技師の国家資格の取得や医科学分野に関する基礎的な知識や技能の習得を目的とした学類です。これはHPにも書いてあるような説明ですね。実際にはどうなのでしょう？3年半医療科学類の学生として過ごして感じたことは、中・高よりも楽しく充実した学生生活を送れたということです。勉強に部活にバイトに...あっという間に時間がたってしまいました。医療科の魅力。それは一言でいえば、勉強と遊びのメリハリです。他学類から「忙しい学類」と言われるほど必修科目が多いですが、みんなで勉強会を開いたりして試験を乗り切っています。長期の休みには夏にはキャンプに、冬にはスノボ旅行に行ったりとクラス内の仲はいいです。またアルバイトをしている子も多く、家庭教師や飲食店、大学の被験者バイトなど、自分に合ったものを探してそれぞれ働いています。4年間ののち、国家資格を取得し臨床検査技師として働く人もいれば、身に着けた基礎研究能力をもとに大学院に進学する人もいます。希望すれば早いうちから研究室に通うことができ、世界で活躍されている教授の下で研究を行うことができます。

次に4年間を振り返ってお話しします。まず一年生、医療科学類では入学式の前から先輩主催の交流会があり、私たちが一年生だったころは花見や

球技大会を開いてもらいました！入学式前に友達と話す機会がもらえて、安心して入学式を迎えることができました。5月ごろにはやどかり祭という学生宿舍のお祭りがあります。1年生にとっては初めてのイベントです。2年生からは授業も専門性が増してくるためテスト勉強・実習に忙しい毎日を送っていました。その中でも11月に行われる雙峰祭は大きなイベントで、夜には花火があがるなど大学全体が盛り上がりました。3年生では秋から病院実習が始まり、具体的な働き方のイメージが見えてきます。4年生は研究室に所属し、各自自分が学びたい分野について研究を行う毎日を送っています。

ここで部活動について話させていただきます！筑波大学は全学の部活・サークルのほかに医学群のスケジュールに合わせた医学系の部活・サークルがあります。先ほど医療科学類は忙しいといいましたが、多くの方がサークル・部活に入っています。私は医学弓道部という医学系の部活に所属しており、週3回正規練習に参加しています。6月頃からは医学生の大会有り、去年の秋に行われた関東大会では団体に準優勝、個人優勝など数々の賞を頂きました。初心者でも丁寧な指導が行われるので上達することができます。また練習だけではなく、バーベキューやディズニー、スノーボ旅行など企画がたくさん、長期休みにもイベントが盛りだくさんです！

また医学だけでなく、応用理工や物理学類など他学類の学生も所属しており、縦にも横にも幅広い交友関係を持つことができます。医学弓道部のほかにも、バスケットやチアリーディング、陸上など多くの部活動があり、きっと、みなさんに合ったサ

ークル・部活が見つかること間違いなし！！！！

最後に私から…。高校生までの決まりきった学問から、大学生になると勉強も生活も一気に自由になります。大学生活4年間は大切な時間です。ただ遊んでばかりや、自由を謳歌するだけではもったいない！自分の将来のために、一つの学問に打ち込んでみてはどうでしょうか？これからの人生を左右する4年ないし6年間について、自分はどう過ごしたいのか、何を学びたいのか、高校生の今もう一度考えてみてください。その中でこの医療科学類も一つの候補として考えてもらえると嬉しいです。受験勉強も頑張りつつ、残り少ない高校生の学生生活を楽しんでください！

2. 国際医療科学主専攻に進んで

医療科学類 国際医療科学主専攻 4年

岩田佳奈子



(講演要旨)

医療科学類国際医療科学主専攻4年の岩田佳奈子と申します。現在免疫学研究室で喘息について研究をしています。今日は大学生活や国際医療科学主専攻について、また国際交流について紹介で

きたらと思います。

今日のオープンキャンパスは遠方からお越しの方もいらっしゃるかと思います。筑波大学についてどのような印象を持たれたでしょうか。体育や芸術等の分野もある珍しい総合大学、研究学園都市つくばにある研究に力を入れている大学、広いキャンパス...色々あるかと思います。入学時にまず私が持った第一印象は「森」でした。見渡す限り森。筑波大学のポスターにある通り、大学なのか森なのか本当に分からない大学です。またこの会場に来られる際たくさんの自転車を見かけたかもしれませんが、筑波大学では基本的に自転車で授業移動します。広大なキャンパスならではの特徴です。京都の所謂町中で育った私は今まで自転車に乗ったことがなく、大学入学後に初めて自転車と出会いました。急いで次の講義室へ向かう他の自転車に揉まれながら乗りこなせるはずもなく（しかも運動音痴）、あきらめました。自転車がないと生きていけないとよく言われますが、なんとかなります。つくばセンターから大学の北端間を循環するバスがあり、私のような学生や実家から通う学生は利用しています。

筑波大学は遠方出身者が多く、宿舎や大学近くのアパートに住んでいる人が大半です。そのため近くに飲食店やコンビニ、スーパーなどがあります。大学付近にコンパクトにまとまっているため生活しやすい環境だと思います。休日はアルバイトやサークル、研究室に行ったり、つくばの自然を楽しんだりすることができます。また TX を使えば秋葉原まで 45 分、東京でライブやイベントに参加することもできます。

医療科学類は一学年約 40 人と小規模な学類で

す。担任の先生もいて、まるで高校のクラスのような感覚です。この人数で四年間過ごすため、同級生や先輩・後輩とのつながりがとても強い学類だと思います。臨床検査技師の養成を一つの目標としているため、必修の専門科目が多いです。また実習にも非常に力を入れていて、基本的な実験操作から病院での検査に関わるようなものまで様々な技術を身につけることができます。専門科目が多くなかなか他学群の授業をうけられませんが、アルバイトやサークルで他学の人と交流できる機会は多くあります。是非色々見学してみてください。

国際医療科学主専攻について紹介したいと思います。国際的に活躍できる研究者を目指すという専攻ですが、具体的にどのように目指すのでしょうか。卒業研究をしたら、又は大学院を卒業したら自動的に研究者になれるというわけではありません。卒業研究ではまず最低限必要な実験技術を身に付けます。同時に、実験がうまくいかなかったときに原因を考えたり、次の実験・仮説にどのように生かすか考察したりします。国際医療科学主専攻では二年間卒業研究を行えるため、じっくりと研究に取り組むことができます。実験を組み立てるのに必要な論理的思考能力や問題解決能力を少しずつ習得していきます。また、英語論文を読んだり内容について発表したりする授業があり、論文の読み方や自身の研究分野の背景知識を身につけることができます。人に分かりやすく伝える発表スキルや論理的思考能力・問題解決能力は研究者に必要なだけでなく、どのような職業においても大切なスキルではないでしょうか。

二年次に様々な研究室の先生方の発表を聞く授

業があり、その内容をふまえて研究室見学することができます。国際医療科学専攻を希望する学生は二年次の後半に希望する研究室を決め、専攻テスト（面接・英語の試験）を受けます。私のように国際医療科学専攻や研究者になることに興味を持って入学した学生もいますが、医療科学類で二年間学ぶ内にどちらの専攻に進むか決めた学生が多いです。目標をもっている方が良いとは思いますが、入学前に専攻を決めなくても二年間の間に考える機会はたくさんあります。ぜひ幅広く興味を持ってアンテナをのばして学生生活を送ってください。

最後に国際交流について紹介したいと思います。現在、医療科学類は国際交流に非常に力を入れていて、新しいプログラムがどんどんできています。その中で私が二年生の時に参加した二つのプログラムを中心に紹介したいと思います。まずは「さくらサイエンスプログラム」。これはインドネシアやベトナムから来た留学生とペアになって、筑波大学の医学系研究室で研究演習、その成果発表を行うというものです。研究についてほとんど知らない初心者同士で3日間研究演習を行います。研究室によって内容は様々です。また留学生と一緒につくばの研究施設やJAXAなどの見学、東京観光にも行きました。一週間と短いプログラムですが、非常に充実したものとなりました。次に「国立台湾大学研修」。このプログラムは「生物資源の医学への応用」をテーマに、約一週間国立台湾大学が所持する実習林や研究室での演習を行います。実習林では冬虫夏草など植物や菌類について学び、実際に採取しました。研究室に持ち帰って、遺伝子を抽出して菌の種類を同定したり、有用と思わ

れる成分を抽出して癌細胞に投与したりと様々な実験を行いました。このような「生物資源の医学への応用」の一連の研究を包括的に体験することができ、貴重な経験となりました。また、同年代の現地の学生と交流することで刺激を受けました。このほかにも、インドネシアへの一週間程度の短期留学や国立台湾大学で三か月間卒業研究を行うなど新しいプログラムがあります。今まで英語に触れる機会があまりなかった人でも視野を広げるいい機会になると思います。

医療科学類は決して”楽”ではない学類ですが、やりたいことをとことん追求できる場所だと私は思っています。みんなそれぞれ目標を持って、お互い励まし合いながら頑張っています。高校生の時点で将来のことを考えるのは少し難しいかもしれませんが、受験を乗り越えることだけではなく、一歩前に進んで将来について考えてみてください。大学で何をしたいか、その先で何をしたいか考えてみてください。このオープンキャンパスがそのきっかけになればと思います。

3. なにかと忙しい大学院生活

～トリプルスリーを目指して～

修士課程 フロンティア医科学専攻 1年

山下 俊



(講演要旨)

こんにちは、人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻修士一年、つまり大学院1年生です。名前を山下俊といいます。

本日は話す内容はこんな感じになっています。

まず簡単な自己紹介から始めたいと思います。名前は先ほど紹介しましたね。出身大学は医療科学類のオープンキャンパスなのでもちろん医療科学類です。出身地は岡山県、晴れの国ですね、、、ところで今日岡山から来られた方いますか？あ、一人いますね、毎年あまりいないので嬉しいです。趣味は野球やバドミントン、あとは日本酒を飲むことです。みなさんはまだ未成年なのであまり関係ありませんね。部活は医学硬式庭球部、いわゆるテニス部に入っていました。テニスに興味に入っていないのは大学時代にやりすぎてもう

好きじゃなくなったからです(笑)。

次にトリプルスリーとは何でしょうか。野球をやっている方ならわかると思いますが、、野球では打率、本塁打、盗塁が3割、30本、30個以上のことを言います。しかし大学院でのトリプルスリーを私が勝手に定義しました。为什么呢。それは、主体性、責任感、協調性です。まあこれはこの後ゆっくりお話するので覚えといてください。

さて、私が大学院へと進学した理由についてお話ししたいと思います。一つは修士号を取得するためです。せっかく4年制の国立大学に入ったので修士号を取得すれば将来に役立つのではないかと考えたからです。次に自分の研究分野についてもっと深く研究したいと考えたからです。医療科学類の卒業研究期間は半年とかなり短いです。その短期間で結果を出すことは難しいと思いました。そのため大学院へと進学してもっと自分の研究に時間を費やしたいと考えました。3つ目は英語力を向上させるためです。これは大学院入試の面接のときの形式的な理由です。大学院に入ったからといって英語力が向上するかどうかはわかりません。しかし、私が本当に大学院に入った理由は物事の論理的な思考を育むためです。少し難しいですね。物事の論理的な思考とは、例えば研究をする際に、ある仮説を立てたとしてその仮説を証明するためには、どのような実験を行えばよいのかを考えなければなりません。また実験結果からどのように解釈できるのかを考えることはとても大切なことです。

さて、ここでクイズです。どうして今回私はこのTAを引き受けたと思いますか。

1、お金がもらえるから、2、友達に誘われて仕方なく、3、みなさんに伝えたいことがあるから さあ答えはどれでしょうか。どれか一つに手を挙げてくださいね。1だと思ふ人？あーハイハイ、、、2だと思ふ人？なるほど、みなさん正直ですね。では3だと思ふ人？いやー素晴らしいですね。そう、答えは3です。もちろんみなさんに伝えたいことがあるからこのTAを引き受けました。

一応僕は大学院生として発表させてもらう場をいただいたので、少し大学院のこともお話しします。まず年間スケジュールから。基本的には入学してからずっと研究の毎日です。就職活動する人たちはおそらく3月から就活が始まるので出来るだけ春に授業を詰め込みます。あとはこの前開かれた研究計画発表会や学会などがあります。先日サマープログラムという筑波大学と提携している海外の大学から留学生を招いて2週間実験を行うというものがありました。いろいろな価値観や文化を持った人たちと英語で会話をするのは、とても貴重な経験であり筑波大のフロンティアのいいところでもあります。次は大学院生活の一日を話します。朝は大体9時から10時くらいまでには研究室に行きます。そこから実験してお昼食べて実験して夕食食べて実験して、、、 気が狂いそうになりますね。でも毎日がこんな生活ではなく、夕食後は友達と飲みに行ったりしています。休日は実験する日もありますが、友達と予定を合わせて旅行に行ったりもして比較的自由な生活を送っています。

こんな大学院生活を送っている私ですが、それでは大学院へと進学するメリットとは何でしょうか。まずは修士号を取得できる。企業で働くに

ても臨床検査技師として働くにしても修士号はプラスになるのではないかと考えています。次に外国人の友達ができます。これは研究室にもよりませんが、ラボによっては留学生が多く在籍しているので英語もある程度はしゃべれるようになります。あとは自分のやりたい研究を思いっきりできます。実験をしないと先生は怒りますが、実験をやりすぎて怒られることはありません。(笑)さらに大学院の授業には自分の分野だけでなく免疫学や病理学など様々な分野の基礎知識を習得できます。

次に大学院に進学するデメリットを話したいと思います。えー白髪が増える(笑)、僕は5、6本増えました。見た目体調が悪そう、、、体重の変動が激しい。さらにうつ病になるかもしれません。うつ病までいってしまったら重症ですね。しかしこれを友達に話したところ、お前だけだといわれたのでどうやら個人差があるようです。

さて、それではそろそろ私の伝えたいことを話したいと思います。また質問になりますが、社会に出て必要な能力とはみなさんは何だと思いますか。1、主体性 2、責任感 3、協調性、主体性とは自分の意志で何かを行動に移すこと、要するに受け身ではないということです。さてどれでしょうか。一人ひとつに手を挙げてください、、、 答えは全てです。意地悪な質問でしたね。どれも大切な能力には変わりありませんが、どれか一つといわれたら私は協調性を選びます。協調性が全くない人は、、、ね、、、ほんとに社会でやっていけないと思います。僕の場合は大学院で研究をやるのは当たり前、皆さんの立場でいえばこれから大学生になって自分に課された勉強を行うのは当たり前のことです。しかしこの医療科学類の4年間で学

ぶことは医療の知識だけではありません。大学生活を通して皆さんにはトリプルスリーである主体性、責任感、協調性を養ってもらいたいと思っています。仮に皆さんが医療科学類に来なくてもこの3つを意識して大学生活を送ってもらえればと思います。ではどうやったらこれらの能力が身につくのでしょうか。意識はしていてもなかなか身につかないものです。僕の場合は部活、バイト、ボランティアまあこれらは友達同士でわいわいやることが多いでしょう。その他に筑波大学の文化祭である雙峰祭や今回のようなイベントのTA、研究室の雑務などがあります。何かを運営するときにだんだんと身についてくるものだと思っています。皆さんは筑波大学にこれほどの能力があるのであればこれから将来必ず何かをマネジメントするような役職に就くはずです。その時にこれらの能力は必ず必要になってくるだろうし、身に付けておいて絶対に損はありません。

最後になりましたが、皆さんも医療科学類に入ってトリプルスリーを目指しましょう。

4. 進撃の医療科学類

グローバル教育院 ヒューマンバイオロジー
学位プログラム5年生

三浦 悠樹



(講演要旨)

本日最後のトークになりますし、「進撃の医療科学類」というタイトルからも想像できる通り、割とフランクな話をしますので、みなさん肩の荷を降ろして、リラックスして聞いていただければと思います。と言いつつ、早速質問から始めたいのですが(笑)、.. みなさん「具体的に何が知りたくて、本日の説明会に来ましたか?」。本当は一人一人聞きたいのですが、時間の関係上、みなさん各自、頭の中で考えて頂ければと思います。もし、すでに知りたい情報を得ているのであればいいのですが、みなさん遥々つくばまで足を運んでこの説明会に参加されているので、何かしっかりとした成果を得て帰っていただければと思います。「なんの成果も得られませんでした!!」、ではお母さん泣いちゃいますからね。

それでは、本題の方に移らせて頂きます。本日

は①簡単な自己紹介、②僕の医療科学類入学から現在・未来へのキャリアパス、そして最後に③未来の医療科学類生へ伝えたい言葉、という内容でお話させていただきます。

自己紹介遅くなりましたが、筑波大学グローバル教育院、ヒューマンバイオロジー学位プログラムに所属している、三浦悠樹です。若干 28 歳です。まだまだ若いです(笑)。現在最終学年の 5 年生で、生理化学研究室で研究を行っています。趣味というか好きなことは実験で土日あまり気にせず実験しています。あと写真も好きで時間がある時に撮っています。岩田さんが先ほどお話した通り、筑波大学は「大学なのか森なのか」というキャッチフレーズがあるほど自然に溢れており、写真を撮る人にとっては、絶好の場所です。ところで、5 年生ってお前何年間、学生やってるんだよ！とみなさん思うかもしれませんが、先ほど山内先生からも紹介があった通り、グローバル教育院ヒューマンバイオロジー学位プログラムとは筑波大学に新設された五年一貫制の博士過程で、医療科学類の 40 人中 1 人の割合の学生が卒業後に進学しているプログラムになります。

僕は「ヒトを理解したい」というシンプルな問いから、医科学領域が学べるこの医療科学類に進学しました。特にヒトをヒトたらしめている脳に興味があり、その脳はどうやって発達するのか？発達した脳に私たちの精神はどう宿るか？といった Research Question に将来的にトライしていきたいと思っています。また、私たちの体、細胞を構成する要素の一つとしてのセントラルドグマに属していない「脂質」、特に細胞の形態や動態を最終的に制御する細胞膜脂質に興味を持ち、現在は脂

質性シグナルを研究している金保安則教授の生理化学研究室で、脳の発達の際に神経細胞が形成する神経突起伸長の分子メカニズムと細胞膜脂質制御の重要性について研究を行っています。ここまでが僕の簡単な自己紹介になります。

次に僕が医療科学類入学から、ヒューマンバイオロジー学位プログラム入学後の話、そして今後のキャリアプランについてお話したいと思います。僕は入学当初、医療科学類卒業後は修士課程に進学し(金保先生の研究室所属後に先生からのススメもあり、最終的には博士過程に進学して)、国内の研究機関や企業で研究を続けたいと考えていました。2007 年に筑波大学に入学し、色々と苦勞もありましたが 2011 年に無事ストレートで卒業。その後、先ほどの演者の山下くんと同様に修士過程のフロンティア医科学専攻に入学しました。国立台湾大学でのサマーインターンシップに参加して基礎的な実験手法を学んだり、学生×社会人×教員交流会の企画に携わったりと、同期にも恵まれ大変有意義な修士の大学院生活を送っていました。しかし、ここで大事件が起きました。2012 年の冬、グローバル教育院ヒューマンバイオロジー学位プログラムの設立が決定しました。「新しい大学院のカタチ」として大きく差別化が図れること、海外ラボレーションや発展途上国での活動など海外での貴重な体験ができること、医学や細胞生物学だけでなく計算科学・物質科学・ビジネスなど多彩なカリキュラムを盛り込んでいること、など大変魅力的なプログラムでした。一方、五年一貫制博士過程で修士の学位がなく後戻りはできないこと、授業を含め全てのやり取りが英語のプログラムであること、また、論文 2 報・TOEIC860

点以上の取得など厳しい卒業要件が盛り込まれていることなど、自分が本当にやっていけるのかという不安要素も多くありました。この時、僕の背中を押してくれたのは、学生×社会人×教員交流会の際に講演者のお話にあった、「Dive in」-飛び込んでみる-という言葉でした。自分に出来るか、出来ないか、自信がない時は、とりあえず飛び込んでやってみる。チャレンジしてみる事が一番大事。という言葉思い出し、僕はヒューマンバイオロジー学位プログラムへの入学を決意しました。

5年間は長いようで短く、気づけばもう5年生ですが、なんとか生きています。5年間の話を10分にまとめるのは厳しかったので、僕の今後のキャリアプランに大きく影響を与えた、フランス・ボルドー大学でのリサーチインターンシップのお話を少しさせて頂きたいと思います。筑波大学の良い点として、台湾、ベトナム、インドネシア、アメリカ、ブラジル、フランスなど世界各国の大学と関係を築き上げている点があげられます。僕は筑波大学が協定を結んでいる大学のひとつである、フランスのボルドー大学へ2ヶ月間留学する機会を頂きました。Interdisciplinary Institute for Neuroscienceは様々な分野・国籍の研究者が集う学際的かつ国際なボルドー大学内の研究機関で、神経科学、特にイメージングの分野では世界トップレベルの研究結果を発表している研究機関です。その研究所で最先端の神経イメージング技術を用い、生きている培養神経細胞の1受容体イメージングを行い、記憶の形成や精神疾患の発症に関わる受容体の側方拡散の分子メカニズムの解明の研究に携わらせていただくことができました。もち

ろん研究内容も大変面白かったのですが、それ以上に学際的な環境、1つの研究室・研究機関の中で医学・細胞生物学だけでなく化学やコンピューターサイエンスの研究者も加わり、研究室間の垣根なく研究を進めている環境に身を置くことができたことが、今後の研究の進め方を考える上で自分にとっては一番の良い経験となりました。また、ラボ内にフランス、イタリア、ポルトガル、スウェーデン、アイルランド、ウルグアイなど世界各国からの研究者が集まる中、自分一人だけ日本人としていわゆるアウェーな環境を経験できたことも自分を大きく成長させる糧になったと思います。そして2ヶ月間、海外の研究室で実験し、その結果を研究室内で発表し、ボスを含めたラボの絵メンバーと有意義なディスカッションができた経験は、今後海外で研究を続けていく上での自信にもつながりました。

この留学での体験を機に、大学院卒業後の進路として海外の研究室で研究することを視野に入れ始めました。まさに今、Job huntingの途中で海外の研究室と個人的にコンタクトをとって交渉を進めている最中ですが、今まで習得した知識や技術を使って、脳の発達に障害が見られる精神疾患の病態メカニズムや、未だに定量的な検査・診断方法が確立されていない精神疾患の検査法や診断方法の樹立といった研究に関わっていきたいと現在考えています。また、これらの研究を通して、僕の当初からのResearch Questionである、脳はどうやって発達するのか？発達した脳に私たちの精神はどう宿るか？といった問題に最終的に言及していければと考えています。以上が僕のこれまでの経験と今後のキャリアプランになります。

僕もまだまだ学ぶ側の立場で、数少ない経験しか積んでいないのですが、僣越ながら最後にみなさんに Take Home Message として僕の経験から大事だと思うことを、幾つかの言葉としてお送りできればと思います。一つ目は「Dive in してみる」。僕の経験の中で、僕の背中を後押ししてくれたように、自分にできるのか、できないのか、自信が無く迷うといった局面は、みなさんにとってもこれからたくさんあると思います。その時悩むことというのは、すごい時間をもたないで、行動すべきです。失敗した時の方がたくさん学ぶことはあります。この言葉が今後みなさんの背中を後押しし、成功へ導く一端となれば幸いです。

二つ目は「Vision と Hard Work」。これは京都大学 iPS 研究所の山中伸弥教授のお言葉です。すでに有名な言葉で、みなさんご存知かもしれません。先月、山中先生がつくばで講演されていた際にも、日本人は Hard Work は得意だけど Vision があまりないという話をされていました。みなさんの目の先の Vision の焦点は大学入試ですが、僕が大学を卒業してから思うのは、大学卒業はスタート地点にすぎないということです。ですので、しっかりと大学卒業後の Vision も見て欲しいなと思います。もちろん Vision は経験の中で変わることも多々あります。変わることは悪いことではないです。しっかりと今の自分の Vision を定めて、それに向けて目の前のことに対して全力で一歩ずつ取り組むことが大事だと思います。

三つ目の「進撃の医療科学類」という言葉は今回の大学説明会のために用意した僕の造語です。一見、中身が無い印象をみなさん受けるかと思いますが、実はちゃんとした思い入れがあります。

医療科学類はまだまだ新しい学類で、医療科学類として設立してからはまだ歴史があまりない学類です。つまり僕ら卒業生・在校生や、これから入ってくる学生がどんどん歴史を作って、盛り上げていく学類です。また、臨床検査という学問はこれからの医療の時代において大変伸び代ある領域ですので、今後の臨床検査や医療科学といったフィールドを盛り上げてくれる後輩にぜひぜひこの筑波大学医療科学類に入って欲しいという願いを込めて、本日「進撃の医療科学類」というテーマでお話させていただきました。

今後、みなさんは大学受験を初め、たくさんの巨人と戦うことになるかと思いますが、一匹ずつ巨人を倒してみなさんが最後には笑えるように願っています、という言葉で、本日のお話終わらせて頂きます。ご静聴ありがとうございました。

筑波医療科学 第12巻 第3号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2016年9月23日